


## 令和6年度 地域情報化アドバイザープロフィール

|                   |   |  |   |
|-------------------|---|--|---|
| ふりがな              | ふるや ひろし   |  |  |
| 氏名                | 古屋 弘  |  |   |
| 所属・役職             | (株)大林組 技術研究所 上級主席技師<br>buildingSMART Japan 理事   |  |   |
| 活動拠点              | 東京都（本社および技術研究所）   |  |   |
| 略歴                | <p>1983年(株)大林組入社<br/>地盤関連の技術支援，現場（地下鉄）を経て，1997年より本社土木技術本部勤務。2010年より技術研究所勤務。<br/>現在に至る。</p> <p>前（公社）地盤工学会副会長。<br/>技術士（建設部門），工学博士，熊本大学客員教授，ISARC ボードメンバー<br/>buildingSMART JAPAN 理事</p> |  |   |
| 地域情報化の<br>専門分野・技術 | <p>建設分野におけるICTの活用に関する技術開発<br/>ネットワークを含む通信技術<br/>建設ロボット（遠隔操縦／無人化／自律運転など）<br/>GNSSの活用、防災ハザード</p>  |  |   |
| 専門分野              | 5G 防災 スマートシティ   |  |   |
| 自治体向けメッセージ        | <p>単純なコンパクトシティの推進には反対です。<br/>少子化，高齢化に向けた社会インフラの見直しは必須ですが，くらしやすさを基本として，それを実現するためのICT導入をまず考える必要があります。</p>   |  |   |
| 関連サイト             | <a href="https://www.obayashi.co.jp/">https://www.obayashi.co.jp/</a>   |  |   |
| 地域情報化に関する実績       | これまでの<br>経験業務・研究<br>活動  | <p>地盤関連の技術支援，現場（地下鉄）を経て，1997年よりGNSS・データベースを用いた施工管理システム，1998年より加速度応答を用いたリアルタイム施工管理技術を開発。</p> <p>ICTの建設分野への適用，および建設ロボットの開発に従事。<br/>2010年より技術研究所勤務。3Dプロダクトモデルの活用の研究とともに建設ロボットおよびICTの活用と現場実装に関する研究開発に従事。<br/>GNSSを用いた施工管理システム，加速度センサを用いた締固め管理システム，ダムコンクリート締固め管理システム等を開発<br/>2001年国土技術開発賞 優秀賞，2009年・2015年ダム工学会技術開発賞，2018年土木学会技術開発賞などを受賞</p> |   |
|                   | これまでに<br>関与した地域情報化に関するプロジェクト  | <p>社会インフラ建設における品質管理の合理化と高度化を目的とし，ネットワーク（クラウドサービスも含む）を用いた施工管理システムを開発し実工事に多数適用。1999年より上記のシステムを構築導入後，2017年より5G実証実験に参加。重機の遠隔操縦の高度化を実現。</p>   |   |